

# 現場のコミュニケーションを革新

『生産性改革』のインタビューに応じた。働く現場のDXを後押ししているバディコムについて、監視カメラやドローン、介護用ベッドなどあらゆるモノをつなぐことで、音声を軸としたコミュニケーションの次なる革新の実現に意欲を示した。



サイエンスアーツ代表取締役社長

平岡秀一氏

## 実践 生産性改革

机の前に座らない最新線で活躍する労働者のことをデスクレスワーカー（ノンデスクワーカー）と呼ぶ。農業、教育、ヘルスケア、小売、製造、輸送、建設など様々な産業に従事し、世界の労働人口の80%（27億人）を

占める。

現場労働の生産性向上

## 「バディコム」を様々なモノとつなぐ

ノベーションが起こって切り替えた。電話では巡回（平岡氏）という。バディコムはトランスクリプションを残すしかバーやインカムを超えなかつたが、バディコムの機能を持つコミュニケーションアプリで、業務利用での音声グループ通話や映像中継、AIなど多彩な機能を持つ。スマートフォンやタブレットなどの情報端末にダウンロードして使う。音声テキスト化や翻訳機能を備え、外国人とのコミュニケーションやグループ通話、企業間通信などがスムーズに行える。バディコムを活用し、多くのサービス業、製造業の現場がDXを実現している。ある鉄道では、乗務員室に設置された電話で行っていた車掌への情報伝達をバディコムに

「現場のDXの余地はまだ多くある。ありとあらゆるモノやテクノロジーを、音声を軸にしたコミュニケーションとつなぐことで、潜在的なニーズを掘り起こしたい」と意欲を示した。

このほか、センサーと介護用ベッド、バディコムをつなぐことにより、介護者が現場で仕事をしている中でも、「△号室の〇〇さんが起き上がりました」などと音声通知が入ることで、被介護者の状況を把握し、事故を防ぐことができる。ユーザー数、グループ数の制限なしに、複数の通話ができる機能や現場の状況を動画で把握できる機能を活用したり、ドローンとつなぐことにより、災害対策や消防、警備などの用途にも活用されている。

（詳細2面）